

平成 26 年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名称	三隅中央会館「和紙の郷」(石州和紙会館)
指定管理者	名称 : 石州半紙技術者会
	代表者 : 会長 川平 正男
	住所 : 浜田市三隅町古市場 957 番地 4
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、業務報告書・指定管理者へのヒアリング・実地調査等により、別途「指定管理者モニタリングチェックシート」で適否を検証する方法で実施した。
担当部署 (問合せ先)	部署名 : 三隅支所 産業建設課 産業振興係
	電話番号 : 0855-32-2803
	E-mail : m-sangyou@city.hamada.shimane.jp

■ モニタリングの総合コメント

三隅中央会館「和紙の郷」(石州和紙会館)は、ユネスコ無形文化遺産に登録された「石州半紙」の技術を伝承し、研究する施設である。

現指定管理期間は、平成 24 年度から 28 年度までの 5 年間で、石州半紙技術者会へ業務を委託しており、当技術者会は、手漉き和紙技術の保持団体として認められた組織で、施設の運営を通じて和紙の発展に大きく影響を与えていると認められる。

平成 26 年度の実績は、ショップ販売部門・体験料部門ともに昨年度を上回り、工房使用料も増となっている。その要因としては、平成 26 年 11 月に細川紙・本美濃紙と共に、「和紙：日本の手漉和紙技術」として、ユネスコ無形文化遺産に再登録されたことによるもので、11 月の来場者は平常月の 2.5 倍で、売上もそれに比例している。

しかし、12 月以降は平常時の入館者数に戻っており、今後は引き続き魅力ある商品開発や販路の拡大、そして集客を生む情報発信が求められる。

会館運営では、和紙に関する研修会の開催や、紙漉き・つけ染め・もの作り体験の実施等、和紙の普及や技術の伝承に対する努力がうかがわれた。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

当施設は、手漉き和紙の技術と伝承を目的とした施設であることから、石州和紙の PR と普及を第一に考え、消費者のニーズに沿った和紙製品の開発や、販路拡大に努力することが求められる。

しかし、現在の販売体制は、ショップ販売を主体とした“待ちの営業”となっていることから、技術者会との連携により、営業できる体制整備が必要である。

<p>I 基本的な考え方</p> <p>① 目的、公平性、効果等への所見</p> <p>当施設では、紙漉き体験・ワークショップの実施や和紙製品の販売を通じて石州和紙の普及を呼びかけるなど、伝統技術の伝承に努めており、地域の貴重な観光資源の一つとしても大きな成果をあげている。</p>
<p>II 業務内容</p> <p>① 事業への具体的取組み方について</p> <p>伝統技術の実技研修や体験工房での一般参加者への指導及び、和紙製品の加工販売（名刺）等、石州半紙の普及・発展を目的として、事業計画に基づいた業務運営を適切に実施している。</p> <p>② 施設の運営体制や組織について</p> <p>技術者会長、組合代表理事長、配置職員（1名）、手漉き和紙研修生（3名）を中心に運営されており、技術者会・協同組合・浜田市の定例連絡会議を月1回毎に開催して、会館及び石州和紙に関連する問題を協議し、施設の適正な運営に努力している。</p> <p>③ 適切な事務や経理について</p> <p>管理者の雇用する専任職員により、適正に処理されている。また、商工会専門職員の指導を受けるなどして、効率的な経理処理に努めている。</p> <p>④ 安全管理、情報管理、緊急時等の対応について</p> <p>体験や工房使用にあたっては、施設・設備の安全保守点検が適正に実施されており、適正と認められる。</p> <p>⑤ その他業務内容について</p>

施設概要及び実績報告書

1 施設概要

施設名	三隅中央会館「和紙の郷」（石州和紙会館）	
所在地	浜田市三隅町古市場 598 番地	
開設年月	平成 20 年 10 月	
設置条例	浜田市三隅中央会館条例	
設置目的	地域の活性化と産業の振興を推進するとともに、石州和紙の手すきの技術の伝承を図るため。	
施設の概要	敷地面積	5,253.54 m ²
	延床面積	455.71 m ²
	施設内容	和紙会館の工房内では石州和紙製造の全工程の体験ができ、展示室・ショップでは石州半紙技術者会と石州和紙協同組合の和紙を一同に展示・販売している。 石州和紙に関する情報発信拠点として、手漉き技術で交流のあるブータン製品の紹介も行っている。
	事業内容	<ul style="list-style-type: none">手漉き和紙技術の伝承と研究に関する事業利用者の手漉き体験に関する事業手漉き事業者の作業場として利用する事業

2 運営実績

項目	H25 実績	H26 計画	H26 実績
開館日数	302 日	306 日	306 日
開館時間	9:00~17:00	9:00~17:00	9:00~17:00

3 利用実績

項目	H25 実績	H26 計画	H26 実績
入館者数	5,080 人	5,200 人	6,606 人
利用料金収入	874,670 円	1,000,000 円	1,037,802 円

4 収支実績（円）

項目	H25 実績	H26 計画	H26 実績
収入			
利用料金収入	874,670	1,000,000	1,037,802
指定管理料	2,600,000	2,675,000	2,675,000
事業収入	2,237,311	2,128,000	2,935,846
後継者育成事業委託料	6,084,000	6,084,000	6,084,000
受取利息	756	0	953
雑収入	359,950	500,000	1,079,617
前期繰越額	523,087	998,171	998,171
貸倒引当金戻入	0	0	600
収入計	12,679,774	13,385,171	14,811,989

項目	H25 実績	H26 計画	H26 実績
支出			
人件費	2,385,804	2,530,000	2,299,255
給与	1,990,282	2,100,000	1,874,573
社会保険料ほか	395,522	430,000	424,682
管理費	3,082,425	4,525,171	3,149,845
消耗品費	764,454	700,000	700,062
燃料費	292,217	350,000	310,706
光熱水費	796,062	800,000	816,446
修繕料	53,550	200,000	132,483
通信運搬費	156,867	175,000	206,145
広告料	21,000	21,600	21,600
委託料	167,580	170,000	165,240
使用料及び賃借料	478,716	500,000	444,090
租税公課	91,151	180,000	499,291
体験材料費	100,224	120,000	138,250
減価償却費	0	0	5,324
車両費	339,574	340,000	379,329
損害保険料	21,544	32,000	26,701
支払手数料	69,065	70,000	125,435
負担金支出	94,048	95,000	96,736
諸会議費	24,000	25,000	24,000
旅費交通費	336,380	600,000	173,200
雑費	57,393	136,571	54,107
後継者支援育成事業経費	0	10,000	0
貸倒引当金繰入損	600	0	1,700
人件費等受入費	▲782,000	0	▲1,171,000
後継者育成事業	6,213,374	6,330,000	6,458,172
支出計	11,681,603	13,385,171	11,907,272
収支差引	998,171	0	2,904,717